

第5章 化石をめぐる基本方針と基本目標

1 基本方針

手取層群が分布する和泉地区では、明治15年に日本最初の「アンモナイト」が発見されて以降、貝類化石のほか、植物化石、恐竜化石などが発見されています。今後も、地区内で施工される公共土木工事箇所等で、多種多様な化石が産出されることが想定されますが、その保存方法や具体的な活用策については確立されていません。

市では、化石及び化石を産出する地域を保護し、次世代へ継承していくことを目的に「大野市化石保護規則」を平成20年7月1日に定め、化石採掘者への事前届出を制度化していますが、必ずしも化石の保全につながっていないのが現状です。

さらに、和泉郷土資料館では化石や化石を含む岩石を多く保有していますが、これまで化石に関する学芸員等の専門職員が配置されてこなかったため、剖出^{*}や整理といった作業が遅れています。

また、和泉地区では以前から容易に化石を発見することができたこともあって、全体的に地区民の化石に対する関心が低いため、その魅力を地域資源として情報発信することが少なく、学校教育においても総合的な学習で化石について取り組んできたものの活用という面では十分ではありませんでした。

こうしたことから、地域の貴重な資源である化石



について、その価値が多くの人に理解され、化石の保全と活用に対する意識の高揚を図ることが重要となります。このため、学術分野の面からは、化石及び地層に関する資料の保全と充実、教育分野の面では、小中学校の児童生徒や成人を対象に化石に対する理解を深める事業を実施します。また観光分野の面においては、化石をテーマとした体験型イベントなどによる交流人口の拡大を図ります。

今後は、この三分野を基本方針の柱とし、必要に応じて具体的な化石の保全・活用策を検討していくこととします。

2 基本目標

基本方針で掲げた学術分野・教育分野・観光分野における化石の保全、活用策については、次のとおり基本目標を定め、重点的に取り組みます。

